古代寺院

三大寺跡

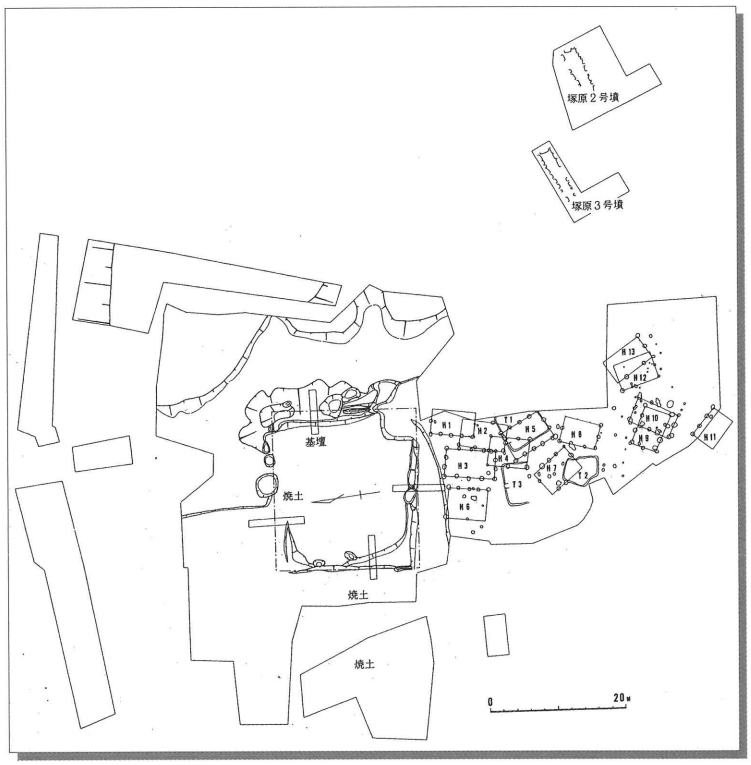
明治36年、醒井小学校校地で白鳳時代（７世紀後半）の瓦が多量に出土して、寺院の存在がわかりました。昭和57年の塚原地区の発掘調査では、７世紀後半から８世紀初頭の建物の基礎となる基壇が出土しました。その規模は東西24m×南北21mで、周りには大量の瓦が集められていて、三大寺の建物跡であることが確認されました。しかし、これ以外の寺院遺構は見つからず、山が迫った周辺の地形から、壮大な伽藍が立ち並ぶものではなく、瓦葺建物一棟のみであった可能性が指摘されています。一方、小学校校地から瓦が出土した北側の地区も、地形的制約から１棟程度の建物しか建立されなかったと思われます。塚原地区の建物には、屋根の軒瓦の文様から天野川流域の古代寺院に共通する山田寺式とよばれる瓦が葺かれていました。一方、小学校校地からは、この瓦とともに奈良藤原宮の本薬師寺で使われている瓦と同じものが見つかっています。このほか、塚原地区の発掘調査では、６世紀後半から７世紀前半の古墳３基と、６世紀末から７世紀初頭の集落跡が見つかりました。醒井周辺は古代豪族息長氏から分かれた息長丹生真人一族の居住地といわれています。また、この地は古代東山道の「横川の駅家」の推定地で、平成２年に醒井小学校で見つかった大型の掘立柱建物は、駅家の関連施設の可能性が指摘されています。

複弁八葉蓮華文軒丸瓦
偏行唐草文軒平瓦

平成22年度 埋蔵文化財活用事業

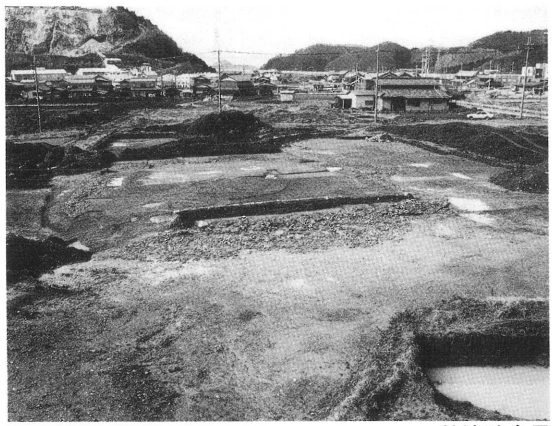
壬申の乱と古代寺院

―（大海人軍の村国連）男依等、近江の軍と息長の横河に戦いて破りつ（『日本書紀』）―この息長の横河は、米原市近江地域から天野川を挟んだ醒井付近を含む地域といわれています。醒井小学校から出土した軒瓦は、壬申の乱後の天武天皇９年(680) に天武天皇が建立した本薬師寺のものと同じです。壬申の乱の激戦地には、犬上川の高宮廃寺、野洲川の花摘寺跡、瀬田川の国昌寺跡など、本薬師寺や藤原宮と関連する瓦を用いた寺院が、死者の菩提を弔うように建立されています。



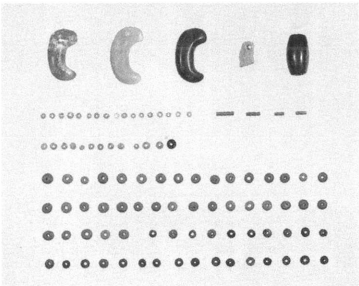
三大寺遺跡発掘調査遺構配置図

三大寺遺跡出土瓦



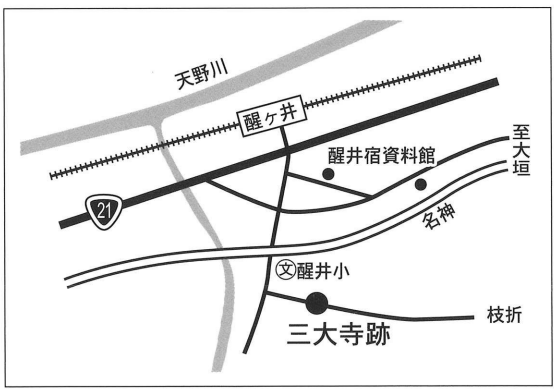
基壇跡全景

塚原3号墳出土状況



塚原2号墳出土遺物（玉類）

大型掘立柱建物跡



三大寺跡

■ 所 在 地　　滋賀県米原市枝折

■ アクセス　　JR東海道線醒ヶ井駅下車。徒歩約15分。

米原市教育委員会

滋賀県米原市顔戸281-1　近江はにわ館内

TEL.0749-52-8025　　FAX.0749-52-8177

平成22年度 埋蔵文化財活用事業